

# 「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先0282-22-7079(増田)

Eメール [oochirasanroku9jo@yahoo.co.jp](mailto:oochirasanroku9jo@yahoo.co.jp)

HP：太平山麓九条の会で検索



168号

2021年6月25日発行

## コロナ禍の中、改憲の動きに注視し 反対の声を上げ続けよう！



私たちの多くがコロナに苦しんでいる中、改憲手続きを定める国民投票法改正案が自民、立憲民主など与野党の賛成多数で可決され、11日の参院本会議で成立した。改憲勢力はこれを機に、改憲の動きを強めています。

九条の会が5月3日に発表したアピール「今こそ市民が声をあげるとき 憲法9条破壊の新たな段階に立ち向かおう」の訴えをいろいろな形で実現して、改憲の動きを止めていきましょう。

### \* 九条の会アピール(後半部分)より

今まさに、日本国憲法の価値を再認識すべき時です。全世界の人々がコロナ禍で苦しむ中、軍備の拡大や戦争に明け暮れていることは許されません。憲法前文の「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する」との理念は、コロナ禍に苛(さいな)まれる人々の命とくらしを守る政治を実現する上で大切な柱です。

九条の会も加わる「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション」の運動や市民と野党の共同した取り組みは、安倍前首相率いる9条改憲を阻止してきました。2019年の参院選では改憲派による3分の2の議席の獲得を許さず、2018年に自民党改憲推進本部が作成した改憲案の国会での提示や議論も押しとどめ、安倍政権を退陣に追い込みました。憲法施行後間もなくから始まった明文改憲の企てを、二度と侵略と暗黒の政治を許さないとの固い決意のもとに国民は74年にわたって阻止し続けています。

ところが、菅政権は、一方で改憲案の国会での審議をすすめながら、「敵基地攻撃能力」の保有、日米共同声明により、憲法破壊を実質的に押し進めています。

今こそ、改めて、市民が声をあげるときです。菅改憲NO!の声を、地域草の根から、あげましょう。コロナ禍の中、工夫を凝らしてさまざまに行動を広げ、改憲発議阻止の署名を集めましょう。野党共闘が成果を上げています。市民の力で、来る総選挙では改憲反対勢力を大きくし改憲を断念に追い込みましょう。

理念の原理

【非戦】  
あらゆる武力行使も武力による威嚇も許されない

【非武装・非軍事化】  
軍隊は警察組織、人道的援助組織に変えるべきだ

【非核】  
核は人類や地球と共存できない。核兵器禁止条約は人類の願い

【非暴力】  
米国に代表される銃社会は、子どもや市民への暴力を生んでいる。世界中で銃規制徹底を

【平和に生きる権利】  
平和に生きる権利を実現する政策を国や国際機構に要求

読めます。インターネットで全文が通ります。インテ

### ◆「9条地球憲章の会」の紹介

- ◆ 太平山麓九条の会にはこんな本やDVDがあります。お読みにになりたい方はご連絡ください。
- ・ 檻の中のライオン 椋大樹(著)
- ・ おりとライオン
- ・ 日本国憲法 九条に込められた魂 鉄筆編
- ・ 菅政権の成立と改憲問題の新局面 — 改憲発議阻止のために — (九条の会ブックレット)
- ・ 平和コンサートDVD (クメタナ演奏)



◆スタンディング 7月9日(金)市役所前 7月19日(月)とちぎ生協前 午後4時~

◆スタッフ会議 7月9日(金)・7月22日(木)市民交流センター 2階会議室 午後1時半~

# 「山本磐夫さんを偲ぶ会」を開催しました

長年、九条の会のスタッフとして、いろいろ活動してきた山本さんが逝去されたのは、昨年4月、コロナ禍の緊急事態宣言中でした。きちんとしたお別れもできないまま、1年が過ぎてしまいました。



私たちスタッフはそれがずっと心残りでした。まだコロナが収束していない状況ですが、さきやかでも「山本さんを偲ぶ会」を開こうと今回の企画になりました。20名近くの方に参加していただき、彼の人柄や活動を再認識できる温かい会になりました。

## 山本磐夫さんの思い出

## 須黒雪枝

長年太平山麓9条の会のスタッフをつとめてくださった大平町在住の山本磐夫さんが亡くなられて1年余り。コロナ禍で気がかりにしていた偲ぶ会が5月30日に催されました。

穏やかな表情の遺影を中心に、山本さんが描いた油絵や切り絵のほか行事を盛り上げてくれた自作のクイズや豆本などが飾られ、スタッフ仲間の心づかいが伝わる会でした。

参加者はそれぞれに思い出を語り合い、10数年間の年賀状には必ず憲法の条文やコメントが記されて、日常的に平和憲法を大事にしていたこと。

・コーラス、絵画、切り絵、社交ダンス、読書など多

趣味で、人生を楽しみ専門の物理や自然食、免疫力、歯の健康、近代史など多様な分野に造詣が深かったこと。

・ドイツに暮らす娘さん一家、イギリスにいる息子さんを誇りにされていたことなどのエピソードが出され、在りし日の山本さんとしばらくぶりに再会したような気がしました。

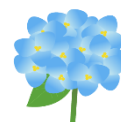
気さくで穏やかで、いつも紳士然としていた山本さん。

当日いただいた風景画を観るたび、平和と民主主義を“不断の努力”で実現していこうとしていた山本さんを思い出すことでしょう。



# 半藤一利さんと憲法九条

郡司俊雄



1945年の夏、日本が戦争に負けたとき、半藤一利さんも私も旧制中学の3年生だった。翌年の3月6日「憲法改正草案要綱」が発表された。半藤さんはそれを読み「そこにある戦争を永遠に放棄するの条項に、武者震いの出るほど、わたくしには素晴らしいことのように思えた」と書く。そのとき私は、教科書もない焼け跡の中学校で授業についていくだけで精一ぱい。憲法の話など出なかったし、新聞に発表された要綱など見てない。半藤さんは中学2年生で3月10日の東京大空襲に会っている。猛火に追われ、逃れた川で水死寸前という目にあい、疎開先ではp51戦闘機の機銃掃射を受けすぐ脇を銃弾が走るという恐ろしい体験を重ねてきた。もう戦争はしないという憲法の要綱に出会ったとき、若者らしい新鮮な感覚で受けとめたに違いない。つくづく私との違いを思い知らされた。

半藤さんは父に「これで日本はもう本当に戦争をしないいい文化国家になるんだね」というと、「ばか者、お前は歴史を勉強してないな。人類史上、戦争がなくなったことはない。日本も10年おきに戦争してきたんだ」と。戦前戦中を下町で生き抜いてきた父にどやされる。いま半藤さんは胸を張っている。日本は憲法のもと73年も平和だった。「どうだ、おやじ、見てくれ」「これからだって続くよ」(2019年のインタビューで)。半藤さんは同じノンフィクション作家保坂正康さんと「この憲法をふたりで百年持たせよう」「百年持てば大丈夫だ」。「ふたりの運動」と称していたのを覚えている。2045年まで生き抜くはずだったのに。あとは生きている僕らの仕事だ。